

HERE GOES!

英語でアート

アートを楽しみながら英語のアウトプット力を身に付けられる講座をご紹介します。

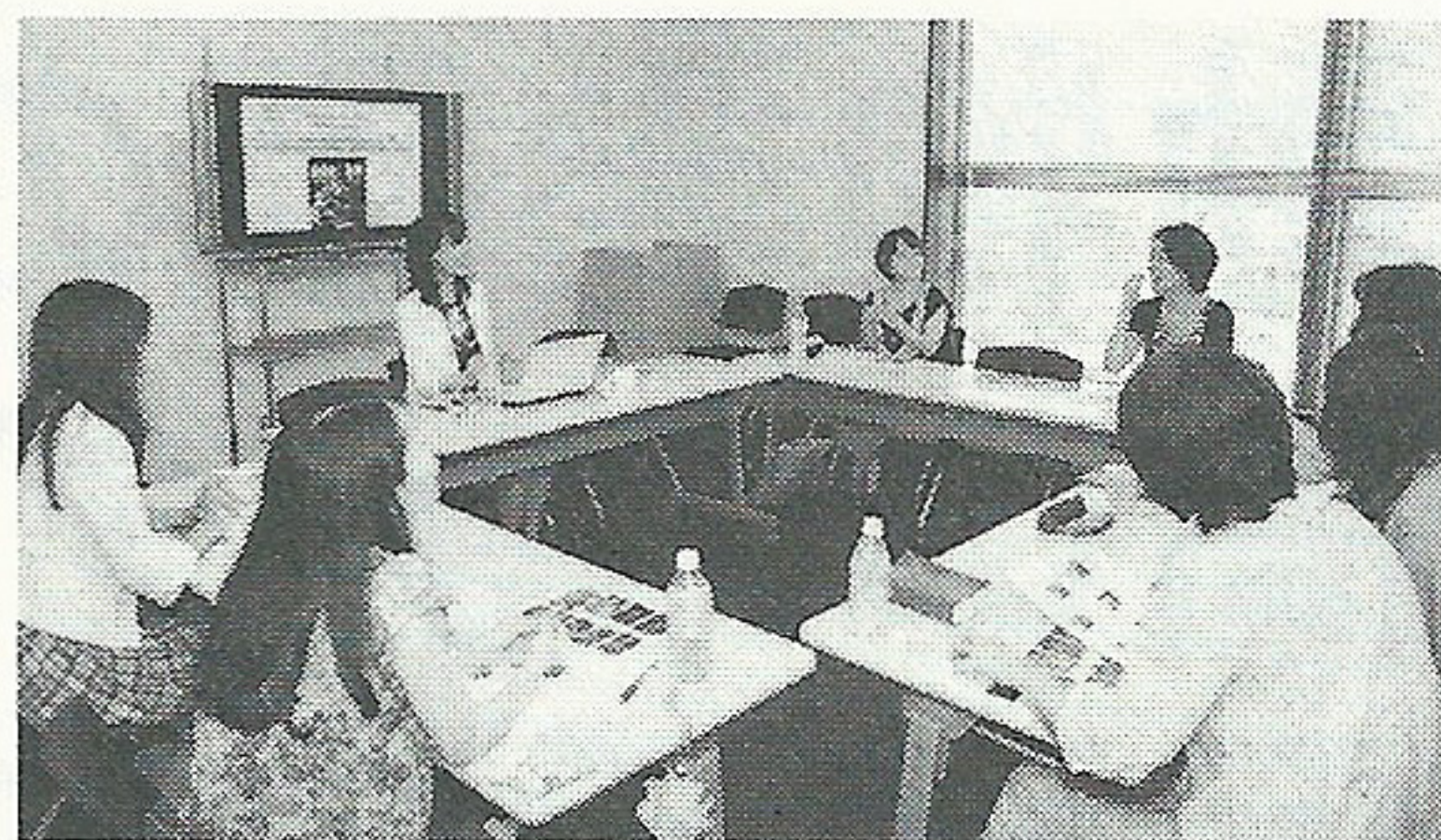
大好きなアートの ことだから英語で どんどん発言できる！

取材・文 ◆ 岡田真紀 撮影 ◆ 横関一浩

日本にいながら英語でアートを学べる講座があると聞き、東京都心部で開催されているクラスにお邪魔した。講座を主宰するArt Allianceの代表であり講師を務める宮本由紀先生は、アメリカの大学・大学院で西洋美術史を修めた後、現地の美術館やギャラリーに勤務したこともあるアートの専門家。アートが好きな一般の人々に向けて、「西洋美術史と英語の楽しさ、豊かさを伝えたい」と講座を始めた。クラスは少人数制で、西洋美術の基本であるルネサンスから印象派の絵画などをテーマに、英語でアートを話すための基礎知識や作品を描写する力を付けるのが目的だ。

取材したのは「ダビンチ★美術史×英会話」コースの3回目(全4回)。レオナルド・ダビンチ作の『カーネーションの聖母』『岩窟の聖母』に焦点を当て、当時の時代的および宗教的背景やダビンチの生涯を織り交ぜながら学ぶ。レッスン時間は1時間40分。生徒は7名で、宮本先生が講義を行い、作品について意見を交換する形式。必要に応じて日本語の解説を挟むが、基本的に全て英語で進行する。

今回の題材は、キリスト教で「母親の不滅の愛」を象徴するピンクのカーネーションが描かれた9枚の作品。ダビンチと他の画家の作品を比べ、構図や色使い、画法などを議論する。先生が各作品について説明した後、生徒に感想を尋ねると、生徒は熱心に自分の感じたことを話す。生徒が英語の表現に詰まると、さりげなく先生が助け舟を出し、全員、臆することなく活発に意見を述べる姿が印象的だ。



先生と生徒が和やかに会話を交わしながら絵画への理解を深めていく

互いの意見を尊重し合う環境で積極的に発言

宮本先生が講座を始めるに当たって最も心掛けたのは、「生徒がどんどん話せる環境」をつくること。「日本人は間違えることに対する恐怖心や羞恥心が強いですが、アートの感想を話すのに正解も不正解もありません。他の人と違っていてもいいと恐れることなく、自分の意見を述べるのが大切です」。

講座に参加して3年という平山佳絵さんは、最初は英語力もアートの専門知識もあまりなかったが、色や形、線について繰り返し描写しているうちに表現力も付き、積極的に話せるようになったという。今では、海外の美術館で知り合った現地の人に絵の説明をして、自分よりよく知っていると感じられるほど。上達の秘けつは、どう表現していいかわからなくても「とにかく自分の考えを話すこと」。「好きなことがテーマだから、自然とやる気が湧いてきます」と笑顔で話す。

別の生徒の長尾弘美さんは、「英語のブラッシュアップと好きなアートを学ぶことを同時にしたい」と半年前から講座に参加している。知らない単語が毎回出てくるが、「『こんな言い方をするんだ!』と発見の連続です」と目を輝かせる。「先生はどんな意見でもきちんと受け止めてくれます。クラス全体が互いの意見を尊重し合う雰囲気になっているので、発言がしやすく、自分も参加しているという実感が得られて楽しいです」と語る。

大好きなアートを英語で学ぶのが楽しくてたまらない。そんな雰囲気がクラス全体から伝わってきた。

「英語を使ってアートを学ぼう！」
Art Alliance

東京・青山で、英語でアートを学ぶ講座を開催。西洋美術史講座、アート&カルチャー英会話、Book Club(読書会)などのクラスがあり、アートを通して楽しみながら英語を「聞く」「話す」「読む」力を高めることができる。<http://artalliance.jp/>



生徒に配布される資料。クラスで取り上げる絵画やスライドがまとめられている



講義をする宮本先生。「That's a good point!」といった先生の言葉が生徒たちの発言を後押しする

今秋の講座情報

美術史×英会話

「ミケランジェロ展」コース/「カイユボット展」コース: 英語での講義とディスカッションなど。

アート英会話

「名画を使って英会話」(連続講座): さまざまなアクティビティを通して名画について学ぶ。

美術史講座

「ミケランジェロ」: 彫刻と壁画を2日間に分けて英語で講義(日本語解説付き)。

※詳細は、上記URL参照